

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790700033		
法人名	特定非営利活動法人 豊心会		
事業所名	グループホームすずらん紡 縦糸の棟		
所在地	福島県須賀川市小作田字荒町台17		
自己評価作成日	平成28年1月31日	評価結果市町村受理日	平成28年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者中心」という理念を掲げて開所から利用者の支援を行っています。利用者が自分の思いや希望を表出することが出来るように、利用者との信頼関係を築き、思いを汲み取り、希望の実現に向けてチーム全員で支援に努めています。利用者一人ひとりに合わせた支援のためには職員の資質の向上も不可欠なので、内部、外部研修への参加等で職員の資質の向上にも努めております。また、運営推進会議などを通し地域の方とのつながりも増えてきました。盆踊りに参加し昔ながらの夏の風物詩を肌で感じる機会があります。年に1回地域の消防団、自主防災役員の方と一緒に避難訓練を行っており、地域の方たちからアドバイスを受け、火災の際協力して頂ける体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、入居者のこれまでの生活歴や日頃の会話、ひもときシート等を活用し入居者の意向丁寧にくみ取り、外出や行事等様々な場面で思いを実現する事により、楽しみが多い生活が送れるよう支援している。
2、研修委員会で年間計画を立て、階層別、専門研修や事業所内レベルアップ研修などきめ細かに行なわれる他、新規採用職員は毎日、業務目標と振り返りを日誌に記入し、管理者から助言や励まし等効果的なOJTが行われ人材育成につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者が中心」という事業所としての理念を掲げています。その中に地域の一員となるという地域に対しての理念を掲げ、管理者、職員が理念の実現に向けて取り組んでいます。	理念を実践するため毎年具体的な行動目標を作り、利用者の思いを汲みとり、その実現に取り組んでいる。支援にあたっては常に振り返りを行い、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に商店街で買い物をしたり、近くの理・美容店を利用しています。また、町内の盆踊りや文化祭に参加したり、地域の消防団、自主防災役員の方と一緒に避難訓練を開所から継続して行っています。	近隣商店で買い物や美容院を利用するほか昔ながらの地区盆踊りや文化祭へ出かけ楽しんでいる。事業所の忘年会には中学生がボランティアとして参加している。防災訓練も消防団や自主防災役員の協力が得られ地域とのつながりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がキャラバンメイトとして認知症サポーター養成に協力しています。また、認知症カフェの開催等行っています。しかし、地域の方に向けて研修を開催するなどはありません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	利用者の実際の生活の様子や行事の様子などを実際の写真を使い、メンバーの方に知っていただけるように努めています。メンバーの方から頂いた意見やアドバイスをサービスに反映させています。	運営推進会議では活動報告や合同避難訓練や市の実地指導の結果、サービス満足度調査等利用者の状況も含めパワーポイントで分かり易く説明されている。委員から提案された意見は、アンケート文面の修正や避難訓練等に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所として連絡を密には図れていませんが、法人として市との情報交換や相談、報告を行っています。SOSネットワークに協力するなど出来る限り協力し、関わっていきたくと考えています。	市から法人が委託を受けた「認知症カフェ」の運営に積極的にかかわっている。また生活保護の利用者や他市町村から入居する場合も連絡を取りあうなど法人の取組みも合わせ協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関その他夜間以外は施錠していません。研修会やミーティングなどで身体拘束について学び、考える機会を設け、日々ケアについて振り返りながら支援にあたっています。	採用時のオリエンテーション、倫理委員会が行う研修、職員のレベルアップ研修などあらゆる機会を通じ身体拘束をしないケアについて研修するほか管理者がOJTの中で折に触れ職員に伝えている。休みを増やしたり傾聴するなど職員のストレス対策にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として倫理委員会を発足しており、研修会で虐待について職員が学ぶ機会を設けています。身体拘束同様にミーティングなどの場で考え、振り返る機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けておりますが、まだまだ理解しているとは言えません。成年後見制度を利用している方もおりますが、管理者が対応しており職員の理解は不十分です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については説明資料を準備し、十分に理解、納得したうえで契約して頂けるように説明を丁寧に行うようにしています。また、見学に来ていただき実際の様子を見てもらう事で不安の軽減などに努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1回ご家族に満足度調査アンケートを行ない、運営に反映させています。また、1年に1回家族会を開催し、ご家族のご意見を伺う機会を作っています。家族会代表幹事には運営推進会議に参加していただき意見を伺っています。	「サービス満足度調査」を実施し、家族から生の声を聞き、運営に取り入れている。また家族からの疑問や意見に対し回答をつけ結果を報告し信頼関係を築いている。そのほか家族会、運営推進会議の家族代表からの意見にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1年に1回理事長、副理事長との面談を行っており、希望や要望を話せる機会を設けております。また、職員会議やミーティング、日常の中で意見や提案を聞き、すぐに反映できるものについては反映させるようにしています。	理事長、副理事長が職員個人面談を行い要望を把握している。また、日頃職員会議やミーティング等で意見を聞いており運営に取り入れている。記録の改善や正月勤務手当の新設、加湿器などの環境整備等意見が運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、労働環境を見直し、職員にとって少しでも働きやすく、長くこの仕事を続けてもらえるような環境づくりを目標に努めています。職員個々の力を見極め、その能力を発揮でき、自信につながる環境を整えられるよう考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に1年に1回は勤務時間を当てて参加し学ぶ機会を設けています。その他にも外部研修会への促し、参加。ミーティングや会議、記録の記入などを通して職員一人一人が成長できるように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の内部研修での他事業所との交流、意見交換する機会を設けています。また、外部研修への参加や交換研修を受け入れ、自分の事業所の振り返り、気付きを促すように機会を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、ご家族とお会いし話を伺うようにしています。ご本人の生活の様子を確認しグループホームでの生活が少しでも過ごしやすい環境となるように考えたり、不安が解消するようにお話をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には必ずご家族の方から要望や不安、心配事などを伺ったり、用紙に書いて頂いています。伺った内容については職員全員で共有しています。職員を知っていただき面会時などに話をしていただけるように会話を持つようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、必要なサービス、手続きなどについて紹介をしています。当法人のグループホームは入居待ちの状況であり、すぐに入居が難しい事も申し込みを受ける際に説明します。不安なままお帰りになることが内容支援していません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に暮らしていく」と言う考えで支援していません。介護する側される側という支援ではなく、一緒に生活する者として考え、出来る事は行って頂いたり、逆に利用者から職員が教わり、支えられている場面もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームに入居したことで利用者、家族の関係が途切れてしまう事が無いように、入居後も関係が続いていくように考え、支援しています。利用者の生活について、相談したり、何かあればすぐ連絡するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所がグループホームに入居したことで途切れてしまわないように、通っていた美容室などについてご家族に伺い出かけています。お墓の場所を伺いお墓参りに出かけたりしています。	入居前に利用していた美容院の利用や友人の来訪等馴染みのつながりを継続できる支援をしている。またお墓参りや今行きたい所等への外出にも柔軟に対応し、家族の協力を得て自宅訪問や外泊等も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、状況に合わせて職員が間に入るようにしています。協力して食事作りをされたり、歩く際に手を差し伸べてくれることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者の方に逢いに来て下さったり、外出の際手伝ってくださることもあります。行事などにお誘いしたり、契約終了後も関係が継続している方もおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や思いを聞き逃さず記録に残すようにしています。そして実現可能な事は出来るだけ早く実現させたいと考えています。その方が何を思い、希望しているのかを常にその方の立場に立って考えるようにしています。	入居者中心の理念から、本人の思いを把握することを最も大切にし、利用者の言葉や思いを記録に残し支援に活かしている。また困難なケースは「ひもときシート」を活用することで利用者への理解が深まり、職員の意識も変わり効果が見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に利用者の「生活史」を家族の方にお願ひし書いてもらっています。また、担当していたケアマネから現在までの生活状況を伺っています。暮らしの様子や生活習慣などについての把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の過ごし方についてご家族やケアマネに伺い、以前の生活と同じリズムで行なえる事は行って頂いています。職員がなんでも行ってしまおうのではなく、まずはその方の力や現状を把握したうえで支援するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、職員が話し合いを行ないケアプランを作成しています。また、定期的に見直しを行っています。プラン作成の際にはご家族の要望を伺うようにしていますが、要望を伺っていない家族の方もいます。	入居時はセンター方式を活用しアセスメントを行い本人のニーズや暮らしを詳細に把握している。入居後は管理者・リーダーを中心にモニタリングを行い、それらを基にケア会議で気づきを出し合い現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や変化、気が付いた事等はケース記録や日誌などに記入し全員で共有を図っています。また、ケアプランの見直しの際には記録を振り返り、プランに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や要望を実現する為に、職員の勤務調整を行ったり、職員が協力し合い柔軟な対応や、支援が行えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係は少しずつ出来てきており、利用者が一人でお店に行った時など声をかけてくれます。しかし、地域資源の把握、発掘までには至っておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医に診察、往診をしていただいています。受診の際はグループホームでの健康状態が分かるように情報を主治医に記録票と共に報告しています。夜間、緊急時にも指示を頂ける体制があります。	家族の希望で近くの協力医に変更する時以外はかかりつけ医に継続受診している。協力医療機関は歯科を含め4か所、往診・夜間、緊急時対応も可能であり適切な医療が受けられる状況となっている。受診時は健康状態を書面で伝え結果を家族から聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1～2回看護師が勤務し健康チェックを行っています。医療面での相談や介護、看護職が情報交換を行ない、利用者が健康に過ごすことが出来るように協力し支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院に付き添い、看護師の方に利用者の様子、必要な情報を伝えています。また、面会に行き状態を確認したり、看護師、ご家族から状況を伺い情報交換を行っています。治療後速やかに退院できるように入院中から準備しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に「重度化・看取りの指針」をもとにご家族に説明を行ない、意向の確認をします。また、利用者の状態が変化した際にはその都度状態を説明し、意向の確認を行ない共有しています。ご家族から説明があれば随時説明を行います。	入居時に「重度化・看取りに関する指針」や「終末期の生活に関する覚書」により説明し同意を得ている。状態が変化した場合も再度意向確認を行っている。協力医は往診や緊急時に対応できる体制にあり、看護師も職員として法人に配置しており、本人や家族の意向を確認し看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや連絡網は作成されています。勤務の中で急変、事故時の対応について伝えたり、主治医より観察の視点など教えて頂く事もあります。研修に参加していますが全職員が学べてはいないので勉強の機会を作っていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練の年間予定を立てていますが、定期的に行う事ができていません。今年度も地域の方と共に避難訓練を行ないアドバイスを頂きました。災害時のマニュアル整備、物資の管理は災害対策委員会を中心に行っています。	消防署立会の総合防災訓練は消防団や地域の協力を得て、実際に煙を発生させ実践的な訓練をしている。マニュアルの見直し、備蓄の管理は災害対策委員会を中心に行われている。訓練は様々なことを想定した計画は立てられているが計画通り実施できていない。	職員全員が夜間も含め災害時に迷うことなく迅速に対応できるよう計画通り訓練を行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねないような声掛けや、対応をしています。生活史や、これまでの大事にされてきた事などを理解し一人ひとりに合った声掛け、対応をしています。	生活歴等本人の情報をフェースシート等を使い把握し、これまでの生活を大事にしながら本人を尊重した言葉かけやプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己表現できるように、日ごろから信頼関係を築けるように努め、本人の希望や自己表現が出来る環境になるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に利用者をはめて支援するのではなく、一人ひとりの時間やペースを大切に出来るよう考え支援しています。希望がある場合には、速やかに希望に添えるよう考え対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、化粧、身だしなみが行えるように、目に入る所に置く等しています。女性の入居者に髪を大事にされている方がおり、職員も同じく大事にし本人と関わっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	献立を入居者と一緒に考えたり、旬な食材を一緒に買いに行き調理を一緒に行っています。利用者に味付けや作り方を教えてもらったりしています。	行事食等で入居者の好みを活かすほか、パン食等個別の希望も対応している。食材の買い出し、調理・片付け等入居者の力を引き出し一緒に行っている。職員も食材や行事など利用者の興味に合わせた会話をしながら一緒に食べており、楽しい雰囲気を感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックをしています。一人ひとりの好み、食事形態に合わせて提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行えていませんが、声掛けや介助にて口腔ケアを行っています。月に一回、歯科往診があり先生にアドバイスを頂いたり、相談をさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	目印などを貼ったりし、トイレの場所を分かるように表記しています。排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っています。トイレでの排泄が継続できるよう考えています。	水分・排泄チェック表により排泄パターンを把握し尿意、便意のない方も排泄誘導によりトイレでの排泄が行われている。現在紙おむつ使用者はいない。また排便も食事などで工夫し、出来るだけ薬に頼らず排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表を行ない、運動後などに水分を勧めています。食物繊維を多く含んだ食材を勧めたり、ヨーグルトを勧める等し排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の気分を伺い、入りたいときに入れるように努めています。入浴剤を選んでもらったり、柚子を入れる等して、少しでも入居者が良いなと思えるように考えています。	入居者の方々それぞれの要望に応じて支援をしている。夜間や毎日の入浴にも対応できている。また重度の入居者も職員2名体制で安全に入浴できている。入浴剤やゆず湯等季節を感じて入浴の楽しみを増す工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や湿度などを調節し、気持ちよく休めるように努めています。天気の良い日には一緒に布団を干したり、冬場は湯たんぽを使用している方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬のファイルがあり、いつでも確認することが出来るようになってきました。内服薬の変更があった際には、全員に周知変化などないか観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かした支援にはまだなっていません。行事などの準備を一緒に行ない、少しでも楽しみだと思えるように考えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と話し行ける所にはほとんど外出するようにしています。外出場所を入居者と相談して、白河や猪苗代などにも行きました。	出来るうちに楽しい思い出を作ろうという考えで入居者の要望を積極的に取り入れたり、職員のアイデア等も活かし外出機会を多く作っている。また個別の要望で買い物や墓参り、自宅を眺める等の支援をしている。家族の協力を得て外泊、外出等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ大切さを理解し、自分で管理できる方には少しですが管理して頂いています。買い物に行った際に品物を選んで頂き、預かっているお金から支払うこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたと話す方には対応しています。また、家族から電話がかかってきた際には本人と変わる等しています。遠方の家族さんより、手紙が届く方もいるので、一緒に返信を書いて、ポストに入れてくる等しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るような環境づくりに努めています。花を飾ったり、日付が分かる工夫等を行っています。また、毎日掃除を行ない環境整備に努めていますがまだまだ不十分です。	共有空間は食堂・和室等明るく段差も少なく、スムーズに移動できるよう工夫されている。入居者は、野菜・花などを楽しんで作り、収穫を楽しみにしている。また、利用者と職員の共同作品が壁に飾られ、生活感が感じられ居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、ベンチ、リビングなどで入居者同士、話しをしたり洗濯物を畳んだり、新聞を読む等して過ごされています。一人ひとりの時間を気分よく過ごせる為に、環境を考えたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	今まで使っていた家具などを持ってきて頂き、今までの生活に近いかたちで、生活できるようにご家族と相談させて頂いています。一人ひとりの思い出の品ですので、職員も大事に扱うようにしています。	居室は収納スペースも広く居室内の動線も安全に確保できている。和室も有り、自宅での生活に近い畳での生活を続けている方もおり、居心地の良い居室となっている。自宅での家具・文具・家族写真等それぞれのなじみの思い出の品等が持ち込まれ、個性ある居室で生活されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来るよう、居室の扉には表札を貼ったり自分で目的の場所に行くことが出来るように考えています。台所の引き出しなどには、何が入っているか分かるように表記していません。		